

令和3年介護支援専門員 専門研修課程 I

ケアマネジメントの演習

～家族への支援の視点が必要な事例～

「家族への支援の視点
が必要なケース」…
ってどんな状況?!



例えば…家族が介護に疲弊していて助けが必要な状況
経済的に困窮し生活そのものに行き詰っている状況 等?!

つまり家族に直接援助をしないと生活そのものが成り立たないケース?!

⇒ それは「家族に(何らかの)支援」が必要な状況では…!

- ・ 介護放棄
- ・ 虐待
- ・ 働かない 等々

明らかに家族に問題がある



- ・ 介護疲れが限界
- ・ どう介護していいかわからない
- ・ 仕事との両立が出来ない

家族の悩みや苦しみ

- ①病識が無い
 - ・ 糖尿が悪化しているのに好きなものを食べさせている。
 - ・ 心不全があり水分制限あるのに守らない。
- ②思い入れが強い
 - ・ 何でも本人の言いなりでしてあげる。
 - ・ 逆に甘やかすのは良くないと無理をさせる。
 - ・ 「私が本人のことは一番分かっています」 等々

これって別に悪い家族ではないし、家族が困り果てる訳でもない…目に見える家族の課題は無い?!

本人の生活は、本人の価値観のみで決められている訳ではない。ともに暮らす、あるいは色々な家族の意識や価値観が絡み合って成り立っている!

時には、本人の抱える課題の認識にズレがあったり、設定した目標や支援内容等と家族の想いにギャップが生じて、ケアマネが計画した通りに進まないこともある。

こんな時どうしますか?
しょうがないと諦めますか?

私たちは「本人の生活」をみようとして、そしてそこにある課題に関与しようとして、それは家族も同じなのです。私達以上にはるかに深く長い時間伴に過ごしてきた事実を考えたらむしろそれは当然です。本人への影響を考えた時、家族以上の人は存在しません。私達は、家族の有り様の良し悪しを評価したり、頑張り具合を吟味する立場にはありません。家族は、本人を援助していく上で、あくまでケアマネの仲間であり先輩なのです。だから、まずは家族の想いや価値観、苦悩に寄り添いましょう。そして、これから先の本人の暮らし方について家族としての構えができるよう感情を整理し、その上で、客観的に本人の個別課題に向き合えるように支援します。具体的には、**本人の望む生活の継続**の為に、家族に出来ること、家族にしかできないことを明確にしていきたいと思います。それがケアマネにしかできない家族支援です。

無断複写・転載を禁ずる

本日の習得目標

無断複写・転載を禁ずる

- ①**家族支援に有効な社会資源**について説明が出来る
- ②**家族関係に配慮しながら**利用者支援の工夫を実施できる
- ③**家族の健康状態や介護に対する思い**を理解し利用者支援を実施できる。
- ④**家族関係や家族状況に合わせて、多数の社会資源(インフォーマルサービス等)**の提案を実施できる
- ⑤**家族の社会的状況**も配慮しながらケアマネジメントを実施できる

家族への支援の視点が必要な事例を用いて講義・演習を行うことにより、**家族への支援の視点も踏まえたケアマネジメント手法**を習得する。

無断複写・転載を禁ずる

大切なポイントは、家族状況を的確に理解し、プランを立て、実行するで終わりではなく、それが機能し、結果が出ているかの評価を行うこと。

それが出来ていないといつか本人と家族の取り返しのつかないギャップを生じさせる結果を招きかねない。暮らしは長い歴史を伴う。一つのプランだけでは調整できない複雑さも備えている。だから丁寧に評価し立て直しを図ることが大切。このプロセスの繰り返しが重要。

専門 I の演習の意義

多職種協働の重要性を理解し、予防的な視点や体系的なアセスメントを身に着けた上で、様々な状況等を勘案し、実践しうる複数の対応策を提案できるよう、必要な知識・技術や留意点の習得に特に重点を置いています。

無断複写・転載を禁ずる

事例の検討ではなく、事例を通し実践で活用できる視点(対応策など)に気づき、習得することができる。

講 義



個人ワーク 1

仮に家族等がいない利用者への支援をするとした時、あなたにとって
メリットと思う事、デメリットと感じる事
をそれぞれ書き出して下さい。

メリット	デメリット



支える人を支えるために

家族等の無償の介護者を支援するための
調査研究、政策提言活動を行っています。

「ケアラー」とは、「介護」「看病」「療育」「世話」「こころや身体に不調のある家族への気づかい」など、
ケアが必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする人のことです。

©一般社団法人日本ケアラー連盟

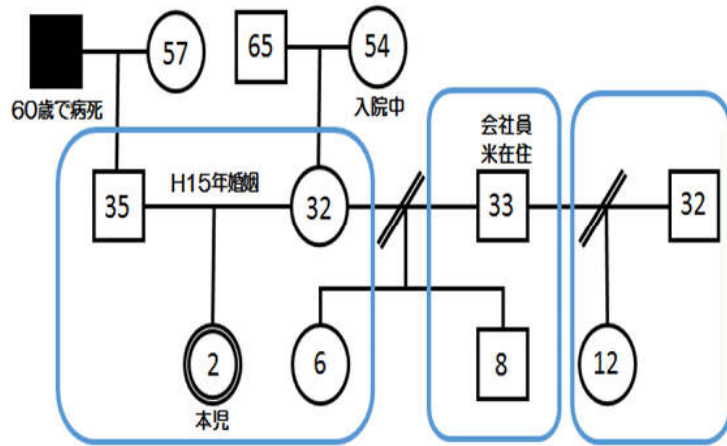


障がいのある子どもを育てている	健康不安を抱えながら高齢者が高齢者を介護している	仕事と介護でせいっぱいでほかに何もできない	仕事を辞めてひとりで親の介護をしている	遠くにひとり住む高齢の親が心配で頻りに通っている	目を離せない家族の見守りなどのケアをしている	アルコール・薬物依存やひきこもりなど家族をケアしている	障害や病気の家族の世話を焼いていて気がかけている
-----------------	--------------------------	-----------------------	---------------------	--------------------------	------------------------	-----------------------------	--------------------------

こんな人がケアラーです

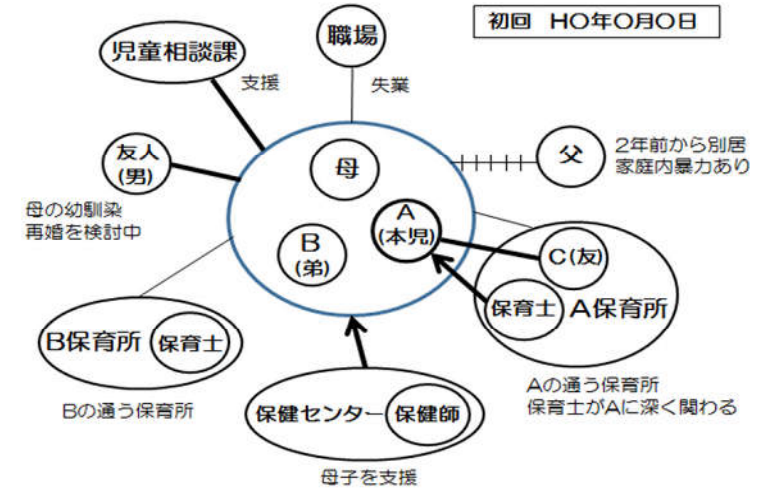
<ジェノグラム(例)>

無断複写・転載を禁ずる



<エコマップ(例)>

無断複写・転載を禁ずる

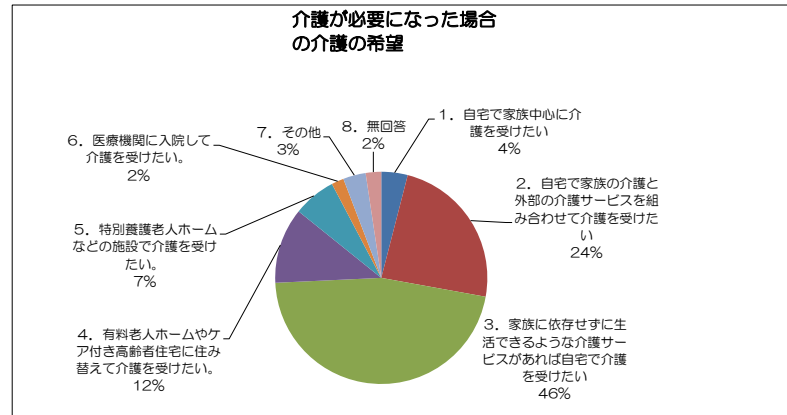


介護の希望（本人の希望）

【自分が介護が必要になった場合】

最も多かったのは「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」で46%、2位は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」で24%、3位は「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」で12%。

無断複写・転載を禁ずる



個人ワーク 2

無断複写・転載を禁ずる

今あなたの目の前に、介護に疲れ果てている介護者がいらっしゃったとします。あなたは、その負担軽減を図る方法として、どのようなことを提案しますか？

レスパイト(respite)とは、「休息」「息抜き」「小休止」という意味です。レスパイトケアとは、在宅介護の要介護状態の方(利用者)が、福祉サービスなどを利用している間、介護をしている家族などが一時的に介護から解放され、休息をとれるようにする支援のことです。

具体的には、介護保険の通所系のサービスやショートステイなどが一般的なレスパイトサービスと呼ばれています…

インフォーマルサービスとして、普段は介護していない親族や、友人、近隣などが支援することも挙げられます。

これは介護をする側へのケアですが、その大きな目的は、**在宅介護の継続が可能になることにあります。**

介護者がほっと一息つくことで心も体もリフレッシュし、介護疲れや共倒れを防ぐことができること、利用者も気分転換や家族の介護を客観的に見ることができ、主体的に介護を受けることができるなど、**利用者の視点でのメリットも大切にする必要があります。**

インフォーマル資源の発掘

フォーマルサービスのように制度として明確に示されていないことが多い。だから自ら探す意識をもつことが大切

- ① 県庁のホームページ
トップページ⇒「暮らし・教育」⇒「NPO」「ボランティア」
「健康・福祉」⇒「保健・健康づくり」
- ② 市町村ホームページ
都城市:「健康と福祉」⇒「医療・健康」⇒「高齢者のための福祉」
- ③ 社会福祉協議会
オレンジカフェ、男性料理教室
- ④ 公益社団法人認知症の人と家族の会
- ⑤ 地域包括支援センター
社会資源リスト、公民館活動、地域住民ボランティア

個人ワーク 3

もう一度、レスパイトケアについて考えましょう。
どんなサービスや支援があったら良いと思いますか？

本日の演習の流れ

	時間	内容	シートなど
講義	80分		
演習①	50分	<個人ワーク> テキスト事例を読みサービス活用の在り方を検証する。また事例とは別の対応策を考える。	演習シート I
演習②	35分	<グループワーク> 個人で検証したサービス活用の在り方をグループで共有する。個人で考えた事例とは別の対応策をグループで共有する。	演習シート I
まとめ	35分	自身の課題と今後の取組みを可視化する。個人の課題や今後の取組みをグループで共有する。 発表	演習シート II
振り返り	10分	課目全体の振り返り 今後の自己学習のポイントを整理する。	研修記録シート

専門 I の演習の意義

多職種協働の重要性を理解し、予防的な視点や体系的なアセスメントを身に着けた上で、様々な状況等を勘案し、実践しうる複数の対応策を提案できるよう、必要な知識・技術や留意点の習得に特に重点を置いています。

事例の検討ではなく、事例を通し実践で活用できる視点(対応策など)に気づき、習得することができる。

共通事例を用いる意味

- ① ケアマネジメント各プロセスに対する自己の考えや捉え方を客観的に把握することができる。
- ② 他者の視点に触れることで視野が広がる。

自己の経験のみをベースにしない

<演習の具体的ポイント>

- ① 事例の中身に目を向けない
 - ・事例の矛盾点の発見や関わり方の是非等の吟味ではない
 - ・この事例を良くしていく!!という議論ではない
- ② 個人の価値観を主張するのではなく振り返る意識が大切
 - ・主観は外して、あくまでケアマネジメント実践者として、どこが大切かを客観的に意識して見ていくことが大切。

あくまで振り返りと気づきの場!!

演習シート I の記載留意点

- 各プロセスの中で、このテーマに沿って、あくまでケアマネジメント実践を行う上で重要と思うところを抜き出して下さい。
- その際、実際にテキストに記載してあることを、淡々と客観的に書き出します。
- 皆さんの感想や気づきの記載ではないので注意して下さい。
- 課題整理総括表は実際に活用されていない人も居らっしゃると思います。使っていないから分からない…ではなく、書式を見て、自分なりに大切と思う部分を検討・抽出して下さい。
- 最後の項目が重要です。時間配分を考え、しっかり検討できるようにして、必ず具体策が導き出せるようにして下さい。

ケアマネジメントのあり方を振り返ると同時に、複数の対応策を検討できるように必要な知識・技術を習得する!!
つまり一課題一解決から一課題複数解決へ意識が向けられるように!!

本日の習得目標

- ① 家族支援に**有効な社会資源**について説明が出来る
- ② **家族関係に配慮しながら**利用者支援の工夫を実施できる
- ③ **家族の健康状態や介護に対する思い**を理解し利用者支援を実施できる。
- ④ 家族関係や家族状況に合わせて、**多数の社会資源(インフォーマルサービス等)**の提案を実施できる
- ⑤ **家族の社会的状況**も配慮しながらケアマネジメントを実施できる

私たちは「本人の生活」をみようとしています。そしてそこにある課題に関与しようとしています。

それは家族も同じなのです。私達以上にはるかに深く長い時間伴に過ごしてきた事実を考えたらむしろそれは当然です。本人への影響を考えた時、家族以上の人は存在しません。私達は、家族の有り様の良し悪しを評価したり、頑張り具合を吟味する立場にはありません。家族は、本人を援助していく上で、あくまでケアマネの仲間であり先輩なのです。だから、まずは家族の想いや価値観、苦悩に寄り添いましょう。そして、これから先の本人の暮らし方について家族としての構えができるよう感情を整理し、その上で、客観的に本人の個別課題に向き合えるように支援します。具体的には、**本人の望む生活の継続**の為に、家族に出来ること、家族にしかできないことを明確にしていきましょう。それがケアマネにしかできない家族支援です。

無断複写・転載を禁ずる